

平成26年度 授業改善推進プラン 【図画工作】

谷戸第二小学校

1 日常の学習における課題分析

<関心・意欲・態度>

どの学年も造形表現活動を楽しみ進んで取り組む姿がある。表現を深め活動に集中する児童のいる中、なかなか自分の納得のいく表現までたどり着かない児童もいる。忘れ物も目立つ。

<発想や構想の能力>

表したいことを感じたことや材料から発想し、つくり進めていく中で、自分の思いやイメージを自信をもって表すことが苦手な児童もいる。

<創造的な技能>

自分の資質能力、今まで学習したことを生かした表現を、さらに深め、また新しい表現方法に取り組もうとする意識の低い児童が僅かではあるがいる。

材料・用具の後始末が粗雑なところが見られる。

<鑑賞の能力>

親しみをもって造形作品に触れ、友達の作品や活動のよいところや楽しさに気付くことができる児童は多いが、中にはその思いを素直に表現することが苦手な児童もいる。

2 授業改善の方策 一体の感覚と言語活動を結びつけ大切にしながら自己表現につなぐ

・ <関心・意欲・態度>

児童の興味・関心・意欲が表現活動の中で自分なりに満足、充実し、長続きするような題材の内容を考案し、導入・表現材料を児童の実態にあわせて提案することができるように各学年の指導計画を作成する。(連絡カード)

・ <発想や構想の能力>

作品を描いたりつくったりする時の想像力を豊かにするために、各々の児童の実体験を大切に、また直接体験を増やすようにする。友達とのコミュニケーション(言語活動の活性化)から発想が広がり、表現能力が一層働くような展開を授業の中で組み入れる。

・ <創造的な技能>

創造的な技能は各々の学年の実態に応じて、材料・用具体験を充実していくことで児童が選択し自らの思いを表現する際に感覚を生かすことができると考える。指導計画の中に体の感覚を十分に生かしていることが実感できるものを組み入れる。

・ <鑑賞の能力>

日常的にも自他の作品を鑑賞する機会をつくり、具体的に色・形・感じたこと等を伝えあうことを通して、自他の思いを知り、認め、共有することを大切にする。

3 活用につながる指導

- ・ 各自の表現活動が充実するように、休み時間等個人の対応に努め支援する。
- ・ 個々の思いや活動内容の確かめのためにワークシートを活用する。
- ・ 鑑賞学習も日常的に交流できるように感想や思いを書き入れるメッセージカードの活用などを考える。鑑賞活動の充実(対話型美術鑑賞教室、作品発表会などの取り組み)
- ・ 主体的に課題に取り組めるように発展的な学習としてさまざまな題材(ポスター募集など)を紹介する。